



# ゆかりじと

第 27 回

大谷

友絵  
月輝  
ひかる

さん  
さん  
さん



## たくさんの笑顔をくれた 大好きな矢板市

「小さご頃の夢は宇宙飛行士になれるじゃんかった」そう話す聰宏さんは、F-1のエンジン開発を手掛けるエンジニアです。幼い頃から宇宙やモノづくりに憧れ、未知の世界に挑戦する気持ちを大切にしてきました。そんな大谷家のモットーは、「後悔のない選択をすること」。そして、選んだ道を全力で楽しむこと」。人生の節目や迷いがぶつかった時、家族はいつも言葉に立ち返ると言います。

大谷さん一家が移住してきたのは8年前のこと。「矢板市は自然が豊かで人が温かい。本当に住みやすくて、大好きなまち」そう話す笑顔には、このあたりで過ごした時間への愛着が感じられます。休日には高原山へキャンプに出かけたり、市内のイベントにハンドメイド作家である友絵さん・月輝さんで展したりと、家族で矢板市での暮らしを満喫していました。2年前に始まった親子プログラミング教室では、一参加者だった聰宏さん・月輝さんですが、講師を務めるほどに成長し、月輝さんは今年、U-16プログラミングコンテスト栃木大会で2連覇を達成。好きなことに夢中になる力を親子で体現する姿が印象的でした。

そしてこの春、聰宏さんは口ケット開発の仕事を出会い、転職を決意しました。新たな挑戦の舞台は北海道。家族にとって大きな環境の変化となりますが、「後悔のない選択をする」という家族の想いは変わりません。年齢や立場に関わらず、柔軟な心でたくさんのこころに夢中になり、楽しみ、夢を追い続ける大谷さん一家の姿に、挑戦することの大切さと、家族で歩む人生の豊かさを教えていただきました。引き続き矢板市も、大谷さん一家のご活躍を応援しています。

### Editor's Note 編集後記

▷取材をしてると「あ!カメラの人だ」とか「いつもお疲れ様」と声をかけてもらう機会が増えました。カメラは今でも大の苦手ですが、笑顔を向けてくれる皆さんのために、より一層精進しようと、改めて気を引き締めた担当歴4年目の年始でした(DYC)

▷今年の二十歳のつどいから、市公式LINEでの受付がスタート!LINEを通じて、受付された二十歳の皆さんを対象に、写真組合や広報担当が撮影した写真の共有が可能になりました!紙面に載せきれなかった写真をお届けできてうれしい…!(あ)